

定期作況報告

(平成23年6月20日現在)
上川農業試験場天北支場

I 気象概況

5月下旬から6月中旬までの気象は以下のように推移した。

5月下旬：平均最高気温が12.2℃（対平年比-1.8℃）、平均最低気温が3.6℃（-2.1℃）と平年より低かったため、平均気温は7.4℃（-2.5℃）と平年より低かった。降水量は7.5mm(24%)と平年より少なく、日照時間は50.6時間（93%）と平年並であった。畑地温は6.7℃（-2.1℃）と平年より低かった。

6月上旬：平均最低気温は7.6℃（-0.4℃）と平年並であったが、平均最高気温が15.7℃（-0.9℃）と平年よりやや低かったため、平均気温は11.7℃（-0.5℃）と平年よりやや低かった。降水量は10.5mm(52%)と平年より少なく、日照時間は45.6時間（86%）と平年並であった。畑地温は9.1℃（-0.9℃）と平年よりやや低かった。

6月中旬：平均最高気温が16.6℃（-0.9℃）と平年よりやや低かったが、平均最低気温が10.6℃（+1.0℃）と平年よりやや高かったため、平均気温は13.2℃（-0.2℃）と平年並であった。降水量は9.5mm(43%)と平年より少なく、日照時間は28.8時間（59%）と平年より短かった。畑地温は10.7℃（-1.2℃）と平年よりやや低かった。

以上、この期間を要約すると平均気温の3旬の平均は10.7℃（-1.1℃）と平年よりやや低かった。降水量の3旬の合計は27.5mm（37%）と平年より少なかった。日照時間の3旬合計は125.0時間（80%）と平年並であった。畑地温は8.8℃（-1.4℃）と平年よりやや低かった。

4月からの主気象要素の積算値は、平均気温、畑地温は平年並に、降水量はやや少なく、日照時間はやや短く推移している。

a. 気象表

項目	5月下旬			6月上旬			6月中旬			3旬平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
平均気温 (℃)	7.4	9.9	△ 2.5	11.7	12.2	△ 0.5	13.2	13.4	△ 0.2	10.7	11.8	△ 1.1
平均最高気温 (℃)	12.2	14.0	△ 1.8	15.7	16.6	△ 0.9	16.6	17.5	△ 0.9	14.7	16.0	△ 1.3
平均最低気温 (℃)	3.6	5.7	△ 2.1	7.6	8.0	△ 0.4	10.6	9.6	1.0	7.1	7.7	△ 0.6
降水量 (mm)	7.5	31.5	△ 24.0	10.5	20.3	△ 9.8	9.5	22.2	△ 12.7	27.5	73.9	△ 46.4
降水日数 (日)	3	4	△ 1	3	3	0	3	4	△ 1	9	11	△ 2
日照時間 (hrs)	50.6	54.5	△ 3.9	45.6	52.9	△ 7.3	28.8	48.6	△ 19.8	125.0	155.9	△ 30.9
平均畑地温 (10cm,℃)	6.7	8.8	△ 2.1	9.1	10.0	△ 0.9	10.7	11.9	△ 1.2	8.8	10.2	△ 1.4
最多風向	E			E			SW					
平均風速 (m/s)	3.4			2.4			2.8					

注1) 平均畑地温は上川農試天北支場のデータ、その他の観測値は浜頓別アメダスのデータ。

2) 平年値は前10か年の平均より上川農試天北支場作成。

3) 降水量、降水日数、日照時間の3旬平均欄は3旬の合計値。

4) △印は対平年値比減を示す。

b. 主気象要素積算値（4月21日～6月20日）

	平均気温 (℃)	降水量 (mm)	日照時間 (hrs)	畑地温 (℃)
本年	511	108	244	398
平年	589	138	324	491
比較	△ 78	△ 30	△ 80	△ 93

Ⅱ 作 況

1. 採草型 チモシー（1番草）

作況：平年並

事由：草丈が平年より14cm長いが、6月20日現在で出穂始に到達しておらず、出穂始は平年より2～3日程度遅れている。生育期間の気温がやや低く推移したため、生育ステージがやや遅れたと見られる。草丈が平年より高く、収量には特に問題がないと見込まれること、生育ステージの遅延は数日以内と見込まれることから、目下の作況は平年並である。

調査項目：

草 丈 (cm)		
本年	平年	比較
104	90	14

注) 平年値は前7か年のうち、平成20年(最豊年)及び平成22年(最凶年)を除いた5か年平均値。

2. 放牧型 ペレニアルライグラス（3番草）

作況：やや不良

事由：草丈は平年並であったが、乾物率が低く、乾物収量の平年比は90%であった。生育期間全般を通じて気温がやや低く推移し、かつ6月中旬の日照時間が短かったことから、生育ステージがやや遅れ、乾物率が低下したと見られる。前番草を合算した場合、乾物収量の平年比は85%となり、収量が平年よりやや低く推移している。

以上より、目下の作況はやや不良である。

調査項目：

草 丈 (cm)		
本年	平年	比較
53	56	△ 3

生草収量 (kg/10a)			乾 物 率 (%)			乾物収量 (kg/10a)			
本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	平年比
2,108	1,917	191	14.7	18.1	△3.4	310	344	△34	90 %

注) 平年値は前7か年のうち、平成18年(最豊年)及び平成22年(最凶年)を除いた5か年平均値。